

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第500号 平成25年2月25日

君に問う

君は教師になって、何年経ただろうか。

教育現場の現実に戸惑い、迷っている君。

忙しい日々の中で、時間に忙殺され苦勞に喘いでいる君。様々なプレッシャーの中で、自分を認めてほしいと焦がれている君。

君に問う。

教師を選んだ理由は何か。

あの頃の理想を思い出せるか。

数ある職業の中から、君は教師を選んだ。

それは、安定を求めてか。やりがいを求めてか。

この道は、奉仕と犠牲の道である。

子ども達の成長に貢献してこそやりがいがある。それを忘れたなら、職を転ずるがよい。

教師は、子ども達に人としての生き方を教え、導く。だからこそ、己に規律を課さなければならない。

君に問う。

君の魂の底に「原則」はあるか。

共に学び合い、支え合う仲間はできたか。

子ども達は教師の教えの中で成長する。やり直しはきかない、真直ぐな道だ。

君に問う。

子ども達の人生に与える影響の大きさと責任の重さを自覚しているか。

子ども達と1対1で向き合うとき、教師は孤独だ。厳しい現実から逃避し、子ども達に背を向ける事は許されない。

君に問う。

孤独に耐え、最後まで子ども達と向き合う覚悟はあるか。

覚悟があるなら、努力しなければならない。教師という職にある限り、学び続けなければならない。

君の仕事はどんな仕事か。

君の努力が日本という国をつくっている。

君の努力が沢山の子ども達を守っている。

君に問う。

誇りはあるか。

子ども達一人ひとりの心の叫びと向き合う熱い心はあるか。

熱い心があるなら、行動しなければならない。

困難に挑み、克服しなければならない。

逃げずにリスクを取らなければならない。

失敗したら、また挑まなければならない。

君に問う。

愛する人はいるか。

いるなら、とことん愛せ。いつか難局が訪れたとき、君が命がけで職務に立ち向かうとき、人を愛する気持ちが君を支えるから。

人間の本当の価値を決めるのは、その人の能力ではなく、岐路でその人がなす選択である。

だから私は、君に願う。

あの時選んだ道を真直ぐに歩いて行けと。

この一文は、治安フォーラムの平成21年3月号に掲載された同じ表題の文章を基に、私が教師向けに修文したものです。

「君に問う」は、教師という崇高な道を選ばれた皆さんへの感謝であり、期待であり、そして激励でもあります。

そして私は、教師の皆さんが、教師を志した原点を常に自分に問い続けて欲しいと願っています。(塾頭：吉田 洋一)